

学部と大学院との連携による

# 6年一貫教員養成コース

国立大学法人 愛知教育大学



AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

# あなたの力を培い、育てる。 そして開花させる場所が、ここにある。 未来を切り拓く6年一貫教員養成コース

## 今を追究し、未来に磨きをかけるカリキュラムポリシー

### 6年一貫コースの誕生と躍進

愛知教育大学教員養成課程の2年生を対象に大学院(修士課程)へ進学するコース「6年一貫コース教員養成課程」が2006年4月に設置されました。学部4年間と大学院2年間を一貫させた教員養成で、質の高い教員を養成する全国初の試みとしてスタートしました。2010年度より、教職大学院進学がコースの進路に加わり、更なるコース進学者の活躍が期待されています。2009年度には、本コースの第一期卒業生が誕生し、それぞれ6年一貫コースの学びを生かす場へと巣立ち、躍進し続けることでしょう。

### 「つながる」ことで学びを魅力的に

教員養成課程は、それぞれの専攻教科科目での講義が多く定められています。しかし、本コースは様々な専攻から集まったメンバーで構成されているため、各々がこれまで学んだ専門性を生かしながら学ぶことができる場です。そのため、専攻教科の枠を越え、教育に対する思いや考えを相互にリンクしながら更に深められる魅力があります。

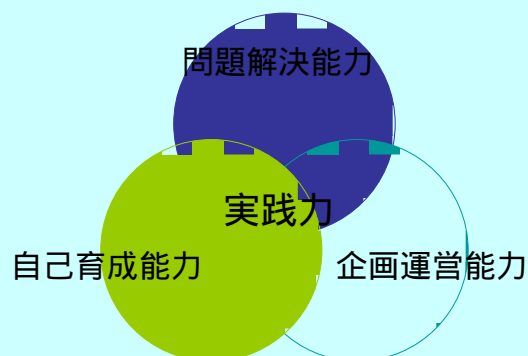
また、学部と大学院がつながることで、修士の学位にふさわしい研究となるよう学部段階から大学院での研究を見通した研究指導を受けるとともに、学部4年次から大学院の専門的かつ高度な授業を受講できます。

### 学ぶ機会を計画・企画する

教育者としての視野を広げ、多様な人々とのコミュニケーション能力を高めるため、海外の学術交流校での授業や交流活動、NPOや企業と協力して行われる教材開発のなど学生の主体性を生かすことができる特色ある学びの機会が用意されています。他にも本コース進学者で議論・追究を重ね、学生が主体となって活動を計画し、企画運営することができます。

## 次代の教員に求められる力の礎を築く

6年一貫コースは多彩な経験の機会と学部と大学院での継続的な経験を基盤とし、確かな実践力となる総合的な学びを創造する場所です。



## 6年一貫コースの特色

他教科免許・他校種免許の専門教育科目の履修が可能です。

長期間の海外研修や企業等研修を行い、幅広い視野、教養、実践的なコミュニケーション能力等を身につけます。

近隣の学校で長期的な単元開発能力等の力を身につけます。

附属学校や近隣学校において Team Teaching や Teaching Assistant を行います。

学部 3 年次の主免実習を附属学校で行い、大学院での附属学校と連携した研究を円滑に行えるようにします。

## 6年一貫コース独自のカリキュラム

6年一貫教員養成コースでは、通常の学部のカリキュラムに合わせて、コース独自の授業を履修します。

学部 3 年	6年一貫ゼミナール (総合演習)	高い専門性・実践力と自らデザインする学び ・各領域の専門性や教職に関する知識理解を生かし現代的教育課題に対応できる「実践的な力量」の基礎・基本を主体的に身につけます。	必修・b1
	6年一貫ゼミナール (総合演習)	・教員の指導・助言のもと、自らの学びを計画 実践 評価 改善する力を養います。 ・「教師力」の基盤となる学級作り・授業作りの理論と実践について、体験的に修得します。	必修・b1
	総合実習	企業やNPOと連携して、授業や教材を開発します。	選択・c2
	総合実習	海外での研修を通して、教職に関する知識や技能を身につけます。	選択・c2
学部 4 年	6年一貫ゼミナール	6年一貫ゼミナール に準じます。	必修・b1
	教職実践演習	学部の 4 年間で学んだ教職に関わる知識や技能を、実践的・理論的に総まとめします。	必修・b2
	応用実習	附属学校に Teaching Assistant 等として参加しながら、実践的力を高めます。	必修・c1
	課題研究(卒業研究)	学部 4 年における、卒業論文にあたります。	必修・c6
教育学研究科 1 年	教職実践研究	教職実践演習を踏まえ、教員として求められる資質能力をより深めます。	選択必修 ・b2
教育学研究科 2 年	教育活動	教育現場において、継続的な教育実践活動に携わります。	選択必修 ・b2
教育実践研究科 1 年	教師力実践演習	現場の期待に応える学級経営力や授業づくりと評価方法等について実践的に深めます。	選択必修 ・b2
教育実践研究科 2 年	教師力向上実習	教育現場での実践を通して学級・授業(学校経営)の基礎・基本を体得する実習です。	必修 ・c2 (予定)

## 6年一貫コースの募集と授業料について

### 募集の時期について

このコースの募集は、教員養成課程の学生を対象に2年次後期に行います。

合格者は面接等による審査を経て決定し、3年次からこのコースのカリキュラムを受講します。4年次での募集は行いません。

### 授業料と大学院の入学料について

授業料は、通常の学部や大学院と同じです。また、大学院の入学料は不要です。

## 6年一貫コースを受講することのメリット

1～2年次では、通常のカリキュラムで授業を履修します。その上で、3～4年次では、通常のカリキュラムに加え、6年一貫教員養成コース独自の授業を履修することになります。

「6年一貫ゼミナール ～ 」: 高い専門性・実践力と自らデザインする学び  
これらの授業は、各領域の専門性や教職に関する知識理解を生かしながら、現代的教育課題に対応できる「実践的な力量」の基準・基本を、主体的に身につける演習形式の内容です。

学部4年次に大学院の授業を受講可能：研究・実践に向けての専門性の充実  
大学院の授業を先行して受講することによって、より高度な専門知識・技術が得られ、理論と実践に関わる課題研究（卒業研究）の充実がはかることができます。

6年一貫した課題研究（卒業研究）や修士論文への取り組み  
このコース独自の特色である今日的な教育課題に対応した実習や授業を受講でき、長期的なスパンで理論と実践の融合した研究ができます。

## 大学院進学にあたって

教育学研究科と教育実践研究科（教職大学院）進学を選択できます。

学部3年次を終えた段階で、教育学研究科又は教育実践研究科(教職大学院)のどちらに進学するかを選択します。学部での学習をふまえて自らの「実践的な力量」と「専門性」の発展を高めることができます。

大学院への進学は「推薦入試方式」となります。

まず「6年一貫教員養成コース会議」において、学生の希望を受けた推薦者の確定をします（成績等を参照）。次に、両専攻において推薦入試選考が行われます。ただしこの時、学科試験等の一部は免除されます。

# 1年の活動を通して学んだこと

3期生(2008年度コース進学者)からのメッセージ

## 韓国研修

韓国研修では、姉妹校の晋州教育大学付設小学校で授業実習を行いました。外国の学校で授業を行うことは、言葉の面や知識不足の面もあり非常に大変でした。そのため、45分の授業をやりきった経験は大きな自信につながりました。

海外の教育現場を間近に見ることで、日本の教育について考える一つの指標を得ることができました。韓国の儒教教育・愛国心教育の一端に触れ、日本の教育との違いを実感できました。(右写真)

## 愛知教育大学附属名古屋小学校研究授業

10月から始まる教育実習に備えて、附属名古屋小学校の研究発表会に参加して、実際の授業の見学を通して授業作りについて話し合いました。スペース事前の勉強会ではどのような視点から授業を観察すれば良いかを考え、授業の展開を導入・展開・まとめに分けて見ることにしました。

見学の終わった後にはそれぞれが見た授業について皆で話し合い、授業を作る際に様々な観点から考えることができるようになりました。



## フリースクール

「不登校の子どもたちを支えられる先生になりたい」こんな思いから、私たち3期生は不登校児の教育に携わる現場で見学や実習を行いました。

主な実習先は岩倉市適応指導教室とNPO法人「こころとまなびどっとこむ」。そこで、不登校の悩みを抱える子どもたちの素顔と、彼らを支える職員の方々の温かい教育を肌で感じることができました。

たくさんの笑顔があふれる「子どもたちの居場所」は、私たちにとっても非常に心地のよい空間でした。

## 中日新聞と連携した教材開発実習 NIE

まず、新聞が作られる工程や新聞記者の方が働く姿を見学しました。それらを踏まえて、NIEを実践されている先生方への取材をし、自分たちの取組を記事にするなど、多彩な活動に取り組みました。

この演習で、新聞を読むときに必要な情報判断力に気付き、社会に対する関心を高めることができました。また、教材は使い方でその役割が変化することを知り、新聞の持ち味を生かした教育 - NIE - を実践したいと感じました。(左写真)

## 南山大学附属小学校見学

愛知県内初の私立共学小学校である南山大学附属小学校(以下南山小)を見学し、授業を観察しました。教育実習後の見学であったので、事前の調べ、話し合いを生かし、より広く深い視点で考察できました。その結果、教頭先生に南山小の教育理念やその特色について疑問・質問を直接投げかけることができました。

キリスト教精神を基盤にした教育、初等教育における英語授業を間近に見ることができ、私たちの教育観を広げる有意義な時間になりました。

## 第3期生3年次の主な活動

- 5～6月 フリースクールの活動に継続的に参加
- 7～8月 中日新聞と連携した教材開発実習
- 8～9月 海外研修（韓国・晋州教育大学校）
- 10月 附属学校主免実習
- 11～12月 シンポジウムでの活動報告
- 1月 私立南山大学附属小学校見学
- 2月 1年間の活動報告書作成
- 3月 知多郡東浦町立緒川小学校見学

## 先輩からのメッセージ

6年一貫教員養成コース 第3期生(2008年度進学) 副代表 寺田直樹  
\*\*\*\*\*

私がこの「6年一貫教員養成コース」というものを知ったのは、入学直後のことでした。入学式で渡された資料の1つに、このコースのパンフレットがあり、その存在を知りました。私はもともと大学院に進学したいと考えていました。なぜなら、小中学校の教員免許を取得できる大学が増え、教員の志望者も増えていることを知り、現場に出たときにより質の高い教員になりたいと考えていたからです。大学院でより専門的な内容を学びたい、質の高い教員になりたい、そのように考えていた私にとって、この「6年一貫教員養成コース」はとても魅力的なコースに感じました。

3年生になり、このコースに進みました。どんな授業があるのだろう、自分の学力でついていけるだろうか、期待や不安もたくさんありました。はじめにガイダンスがあり、授業についての説明があり、自分たちの興味を持った活動をしていけば良いことが分かりました。今まで大学で受けてきた授業と違って、自分たちで授業を作っていくということでした。はじめは、何をすれば良いのか分からず、戸惑いました。しかし、3期生同士で話し合い、いろいろな活動をしてきました。自分たちで意見を出し合い、主体的に学ぶことができ、充実した学びの時間にすることができました。

自分たちに必要なことは何かを考え、主体的に学習する力は、社会人にとって大変重要な力だと思います。このコースでは、そのような力を養うことができます。

また、先輩と後輩のつながりも強いいため、先輩方からもいろいろなことを教えていただけます。教員志望の学生にとっては、非常に魅力的なコースです。より質の高い教師を目指して、6年一貫教員養成コースと一緒に勉強してみませんか。